

残り1年はどうすればいい？

2023年のNISA運用は こうアドバイスしよう

FPオフィスあしたば 代表取締役社長 安藤 宏和

ここでは、残り1年、NISA口座をどう運用していけばよいか悩むお客様へのアドバイスのポイントを解説します。

1 現行NISAと新NISAをどう運用 するか基本的な考え方を押さえよう

2024年から新NISAが始まるというニュースを聞いて、「現行のNISAで投資している分はどうなるのか」「今からでも現行NISAを利用すべきなのか、新NISA開始まで待ったほうが良いのか」といった疑問をお持ちのお客様が多くなるはず。そうしたお客様からアドバイスを求められたときの、基本的な考え方と伝えるべきポイントを理解しておきましょう。

新NISAが始まるまで運用は待つべきか？

新NISAと現行NISAはまったく別の制度として切り離されることになりました。詳しくは後述しますが、現行NISA口座で投資した分は満期を迎えた時にロールオーバー（持ち

越し）をして新NISA口座に移換することはできず、売却するか課税口座で運用を続けるしかありません。

その反面、新NISA口座で投資した分は「無期限で非課税」となるため、一般NISAで5年、つみたてNISAで20年という非課税期間のある現行NISAに比べて圧倒的に有利です。

よって、「現行NISAよりも有利な新NISAが始まるまで、待ったほうが良いのでは」と考える人が多くなるのが予想されます。

投資機会を逃さないことが最優先！

結論から言いますと、基本的には、2023年は、新NISAのスタートを待たずに現行NISAも活用したほうが良いと言えるでしょう。

ある程度の預貯金を保有している人は、「現在保有している預貯金をキープしておき、2024年に新NISAが始まるから投資する」という選択肢を数回に分散させ、資金の一部は2023年の現行一般NISAで投資して、残りの資金は2024年の新NISAスタートを待って投資しても良いのではないのでしょうか。

また、そもそもですが、預貯金が300〜500万円程度であれば前述のとおり投資に回せる資金は限られているため、収入の一部を投資に回すのも含めた「積立投資」に軸足を置くべきといえます。

こうしたケースでは、2023年は現行一般NISAではなくつみたてNISAを活用し、2024年以降は新NISAの「つみたて投資枠」で積立を継続するというプランを提案すると良いでしょう。

もあります。

前述のとおり2023年に現行NISAで投資した分は一定の非課税期間があるのに対して、2024年まで待てば「無期限で非課税」になるわけですから、非常に大きな差であるのは明白で、間違った考え方はありません。

しかし、待っている間にも相場は動き、株価や基準価額はアップダウンを繰り返します。その間に下がったら安く買えるのでも有利になりますが、上がったしまったら当然不利になります。その場合は「また下がるまで待とう」という心理状態になりがちで、投資するタイミングを見計らっているうちに更に株価が上昇するなどして、結果的に投資機会を逸する可能性が十分にあるでしょう。

投資時期の株価・基準価額の多少の違いや、新NISA・現行NISAの違いは、実際に投資をして得られるメリットの違

いですから、投資をしなかったら元も子ありません。

ですから、「2023年は何もしないで2024年まで待つべき」ではなく、「2023年の現行NISAの枠も使って投資を実践すべき」とアドバイスすることで、お客様が投資機会を逃さないようにしてあげてください。

積立投資の場合はどう対応する？

積立投資は、ドルコスト平均法の効果によって相場のアップダウンの影響を抑えることができ、長期間継続することによって成果に繋がります。始めるタイミングを迷う必要はなく、「とにかく早くスタートして淡々と続ける」ことが必勝法と言えます。

そのため、これから積立投資を始めようと検討している人は「新NISAを待たずに現行のつみたてNISAで始めまし

「一括投資の場合は「待つ」という選択肢も

ただ、一括投資の場合は条件によって「待つ」という選択肢を提案すべきケースもあります。保有している預貯金が300〜500万円程度という状況で、100万円程度のまとまった投資を考えているというケースです。

この条件で2023年中に現行一般NISAの枠を使い、上記のような一括投資を実行するのはあまりお勧めできません。預貯金が300〜500万円であれば投資に回せる資金は多くて100〜200万円程度です。ですから、100万円程度